

特集

絶対！ 整形外科外傷学

善家雄吉

Yukichi ZENKE

産業医科大学病院
外傷再建センター

整形外科外傷学は数ある整形外科のサブスペシャリティーの中で、最も基礎的な分野でありながら、奥深く難しい分野でもあります。今回、その整形外科外傷学の魅力を多くの方々にお伝えしたく本企画を考案しました。執筆陣は、現在本分野の第一線で活躍されている先生方に打診いたしましたところ、皆さん売れっ子であちこち引っ張りだこであるにもかかわらず、快く引き受けてくださり、期待以上に素晴らしい原稿を仕上げていただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

本特集を企画するにあたり特に意識したことは、巷に多くの良書がある中でも興味を持って本書を手にとっていただけるような構成と内容にすることでした。まず冒頭の座談会では、整形外科教育の普及や啓発活動を実践するために設立した任意団体「JOIN TRAUMA」の初期メンバー4名に集まっていただき、これまでの活動の振り返りと今後の10年について存分に語り合っていました。以後の構成は、1人の外傷整形外科医が日常臨床で遭遇するさまざまな状況を再現すべく、7つの場面に分けて項目を仕立てました。

「1章 整形外科医局(自習室)」では、とりわけ手術治療を中心とした実臨床に直結する知識を、「2章 整形外科外来」では、遭遇し得る場面を想定したいくつかのトピックスについて学んでいただきます。「3章 手術室」では、SSI予防とともに医師と看護師のコミュニケーションを題材に手術室看護師目線からご執筆いただきました。そして、「4章 整形外科病棟」、「5章 リハビリテーション室」へと続きますが、いずれも実際の臨床例を中心にコメディカルの方にも執筆をご協力いただき、動画を交えて分かりやすく解説してもらいました。さらに、「6章 学会会場」の項では、以前オンラインサロンで討議された内容の中から、いくつか厳選したトピックスを誌上シンポジウムとして再現していただきました。最後に「7章 外傷教育」について、それぞれの執筆者に熱く語っていただきました。また、整形領域の重鎮の先生方には、ショートメッセージとして、随所に非常に教訓的な「コラム」を寄稿していただきました。

執筆者全員の熱のこもった原稿を拝見して、本特集号の企画・編集に携わることができたことをとても誇らしく思います。医師のみならずコメディカルの方々にも手にとっていただき、整形外科外傷学の面白さや今後の発展性が伝われば幸いに存じます。「絶対！ 整形外科外傷学」を存分にお楽しみください。